

岩手県における伝統的民家についてのデータベースの構築

高橋 宏 一

1. はじめに

筆者は高橋（1992）において、日本を代表する民家の一つで旧南部藩特有の農村家屋である南部曲家に関する従来の研究を、①曲家の形態のおよび機能的特徴、②曲家の分布範囲、③曲家と馬の飼養および生産との関係、④曲家の間取り形態、⑤曲家の成立に分けて整理し、今後取り組まなければならないいくつかの課題を指摘した。それらの課題は相互に関連し合っているが、それらを矛盾なく説明できる体系的な説明がなされていないため、今後の作業を進めるために一つの作業仮説を提出した。

その作業仮説とは、「18世紀前半ないしは中頃に曲家あるいは内厩が最初に出現した地域では、それ以前は厩がなく、つまり外厩もなく、新たに馬を飼う必要が生じて厩が必要となったが、その際馬飼養の利便性から内厩にせざるを得なかった。家屋を増築するには、棟方向に延長する場合と直角方向に延長する場合とが考えられるが、多頭数飼育をする必要があるものは構造的にも安定する後者を選択した。したがって、直家も曲家も母屋の建築年代が古いものには厩を後補したものが多い。そして、次第に厩飼が普及するにつれて、当初から内厩直家または曲家として建てられるようになった。仮に、この仮説が正しいとすると、曲家や内厩直家の成立は馬の生産地域ではなく、馬の飼養地域ということになり、そこから次第に生産地域へも伝播していったと考えられる。とすると、具体的な曲家の発生地としては遠野よりも、馬の飼養地域である盛岡周辺の方が可能性が高いように思われる。盛岡付近と遠野付近では間取りなどにおいて曲家のタイプが異なるのは、それ以前の直家だけの時代にすでに生じた差異の影響と考えられる。」（高橋 1992 pp.215-216）というものである。

その上で、「以上の推論は、いくつかの事実を前提として、その場合どのような説明が可能かを試みたものであり、新たな事実が発見されその前提が崩れれば、推論も崩れるのは当然である。ほとんどの曲家が失われた今となっては、実態調査をすることは不可能であるが、曲家の分布、曲家の屋根型や棟高といった形態的特徴、勝手の方向、立地位置（site）などは、古い空中写真を用いてある程度は明らかにすることができるだろう。また、これまでなされてきた個々の曲家の調査結果をデータベース化し、位置、建築年代、農家の階層、間取り、曲り部が後補かどうかなどを総合的かつ体系的に処理し、分析する必要があるだろう。さらに、曲家だけでなく直家も同様に分析をする必要があることは、見てきた通りである。その際、調査年次、調査方法、調査の精度などが異なる個々の資料の検討が不可欠となるだろう。特に、間取りに関しては調査時の現状の状況なのか復元状況なのか区別して把握し、さらに形態だけでなくその構造を明らかにするなどの再検討が必要であろう。」（高橋 1992 p.216）と述べた。

また筆者は、従来の日本における民家の間取り研究の問題点を指摘している（高橋 1995）。

具体的には、従来の研究では分類基準として間取りの幾何学的形態を重視し、民家平面における各部屋の相対的位置や部屋相互の相対的位置関係など、部屋の空間的な構造をあまり考慮していないこと、および部屋の空間的構造を重視する場合でも、分類の基準を少数の要素（例えば広間の相対的位置や座敷の相対的位置あるいは両者の組み合わせ）に求めているが、その要素の間取りにおける意義や重要性が十分検討されているとは言い難いことが問題であると指摘した。従来の日本民家の間取り分類にはこのような問題がある結果、間取り研究の目的である多様な間取り相互の文化系統（あるいは発展系統）や発展過程における関連が十分に明らかされていない。さらに、この間取り研究の目的を達成するには、幾何学的形態に関する要素以外にも、部屋の開放度、開放の方向など部屋間および部屋と外部との関係を示す空間的構造に関する要素も考慮に入れた総合的な間取り分類が不可欠であると主張した。

高橋（2016）では、上記主張を踏まえて、間取りの幾何学的形態ではなく空間的構造を重視した分類および検討を行い、岩手県における様々な間取りの文化系統と発展過程について考察し、今後のより詳細な調査・検討のための試論を提出した。その際、間取りの発展過程を明らかにするため、同一民家で現状の間取りだけでなく過去の復原された間取りも判明している民家を対象として、22戸44枚の間取り図の分析を行った。その結果、岩手県内の伝統的民家（農家）の間取りは、文化系統の相違による地域的な違いが大きいが、同じ文化領域内でも文化要素の伝播時期・受容時期が地域や農家階層によって異なるため、同じ時代に建てられた民家でも地域や階層によって間取りが異なることを明らかにした。しかしこの分析では、後述する2列型民家でしかも間取りが復原されている民家に限定したため、対象民家が限られ、分析した戸数がかなり少なかった。また、対象民家の所在地も地域的にかなり偏っており、文化系統の異なる間取りの地域的な展開や、その地域内での発展過程を十分に明らかにできなかったとは言えない。

以上のように、筆者は岩手県内の伝統的民家（農家）を対象として、南部曲家の成立過程や馬産との関連、さらには曲家か直家を問わず間取りの文化系統と発展過程に関心を持ち、研究を行ってきた。それは現在の岩手県が、旧南部藩領と旧伊達藩領から成り立っているため、近世において異なる文化領域が形成され、それ以降互いの異なる文化要素の伝播と受容に伴う文化変容が旧藩境界域を中心に展開されている興味深い地域だからである。しかしながら、南部曲家の研究であれ、間取りの文化系統と発展過程に関する研究であれ、前述したように多数の民家に関するデータが必要となってくる。そのためには、まず岩手県の伝統的民家（農家）のデータベースを構築必要があると考えた。そこで筆者が、既存の研究論文、各種報告書、市町村史等の公刊されている資料をもとに、岩手県の伝統的民家についてのデータベースを作成したので、そのデータの一部を公開し、作成方法とデータをもとにした岩手県の伝統的民家（農家）の地域的な特徴の概略について報告したい。なお、個々のデータを用いたより詳細な分析結果およびその考察については、稿を改めて論じる予定である。

2. 岩手県の伝統的民家（農家）のデータベース

以下では、データベースの作成方法、付表に示したデータベースの主な項目についての説明、およびそれにもとづいた岩手県の伝統的民家（農家）の地域的な特徴について概観する。

(1) 資料の出典

日本（特に岩手県関連）の伝統的民家や岩手県の民俗・歴史に関する書籍、研究論文、報

告書等約1,000点を対象に、岩手県内に存在するあるいは存在した個々の伝統的民家（農家・商家・武士住宅等）に関して記述がある文献を探索し、個々の民家を単位として、その民家に関する記述内容を項目毎に整理してデータベースを作成した。

そのうち本報告では、農家でかつ間取り図が掲載してある民家のみを対象として作成したデータベースの一部を付表に掲載した。なお、付表には調査民家の間取り図が掲載してある文献名も示したが、他者あるいは自分の過去の文献に記載された図を引用している文献も少なくないため、重複を避けるために原則として引用ではなく著者自らが調査した初出の文献のみを付表の「初出出典」欄に示した。ただし、初出文献が現在入手困難な場合や印刷不鮮明等により間取り図が詳細に読み取れない場合は、初出以外の文献も示してある。

（2）対象民家と間取り図

付表に示したのは、191の文献に記載されていた伝統的民家（農家）で、かつ建築時期が昭和20年以前の民家844戸についてのデータである。ただし、文献に掲載されている間取り図には、調査時点での現状を示すものとそれ以前の状態を復元したものとがあるため、付表では同じ民家でもそれを区別して示してある。

その結果、844戸中現状間取り図のみの民家が654戸、復元間取り図のみの民家が91戸、現状・復元の両方の間取り図がある民家が99戸であった。したがって、付表には現状間取り図753戸分、復元間取り図190戸分、合わせて延べ943戸分の間取り図に関するデータが掲載されている（表1も参照のこと）。なお、現状・復元両方の間取り図がある民家については、現状間取り図は「民家番号-1」、復元間取り図は「民家番号-2」というように、民家番号で区別して示してある。

（3）間取りの形態および構造

間取り図からは、基本的に間取りの幾何学的形態を読み取ることができる。すなわち、床上部がどのような部屋（空間）から構成されているのか、各部屋の数や広さはどうか、さらに各部屋は床上部のどこに（例えば下手列か上手列か、表側か奥側かなど）配置されているかなどを読み取ることができる。さらには、全体として間取りが整型なのか喰違型かということも含めて幾何学的な形態が分かる。しかしながら、隣り合う部屋同士が戸や障子で仕切られているものの往来できたり開放して使用できる場合と、壁で仕切られ往来が不可の場合とでは、隣り合う部屋同士の関係がまったく異なる。例えば、「ザシキ」と呼ばれている部屋が、実際には極めて閉鎖的な空間であり、実質的には寝室である民家も少なくない。部屋の呼称はその部屋の機能を知る上では重要であるが、それだけでは正確な判断はつかない。すなわち間取りの空間的構造（分節された空間の機能及びそれらの相対的位置関係）を知るには、民家平面における各部屋の相対的位置関係だけでなく、隣り合う部屋同士や部屋と外部との往来関係も知る必要がある。

このため本研究では、前者の幾何学的形態しか読み取れない間取り図を形態間取り図、後者の空間的構造も読み取れる間取り図を構造間取り図と呼んで区別することにした。間取り図から読み取れるデータは、形態間取り図か構造間取り図かによって異なるが、付表には両者から共通して得られるデータ、すなわち所有者の氏名、民家の所在地、民家形態、間取りの形態的特徴について掲載した。構造間取り図からは、間取りの形態的特徴以外に構造的な特徴（具体的には高橋（2016）での分析に用いた下手列前後往来、上手列前後往来、前相互往来、奥相互往来等）のデータを得ることができる。また、これら以外では、民家にもよるが、間取り図から

表1 旧藩領・旧郡別，現状・復原別，形態・構造別，列数別間取り図数

| | 旧郡名 | 総数 | (図数) | | (図数) | | (図数) | | | | (構成比) | | | |
|-------|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|-----|------|-------|-------|-------|------|
| | | | 現状 | 復原 | 形態 | 構造 | 列数1 | 列数2 | 列数3 | 列数4 | 列数1 | 列数2 | 列数3 | 列数4 |
| 旧南部藩領 | 九戸郡 | 74 | 66 | 8 | 36 | 38 | 1 | 68 | 5 | 0 | 1.4% | 91.9% | 6.8% | 0.0% |
| | 二戸郡 | 124 | 122 | 2 | 99 | 25 | 14 | 97 | 13 | 0 | 11.3% | 78.2% | 10.5% | 0.0% |
| | 岩手郡 | 103 | 97 | 6 | 66 | 37 | 2 | 98 | 3 | 0 | 1.9% | 95.1% | 2.9% | 0.0% |
| | 紫波郡 | 60 | 54 | 6 | 15 | 45 | 0 | 46 | 14 | 0 | 0.0% | 76.7% | 23.3% | 0.0% |
| | 下閉伊郡 | 51 | 46 | 5 | 24 | 27 | 0 | 42 | 8 | 1 | 0.0% | 82.4% | 15.7% | 2.0% |
| | 上閉伊郡 | 129 | 81 | 48 | 29 | 100 | 4 | 44 | 79 | 2 | 3.1% | 34.1% | 61.2% | 1.6% |
| | 稗貫郡 | 28 | 22 | 6 | 12 | 16 | 0 | 15 | 13 | 0 | 0.0% | 53.6% | 46.4% | 0.0% |
| | 和賀郡 | 46 | 32 | 14 | 17 | 29 | 1 | 11 | 33 | 1 | 2.2% | 23.9% | 71.7% | 2.2% |
| 計 | 615 | 520 | 95 | 298 | 317 | 22 | 421 | 168 | 4 | 3.6% | 68.5% | 27.3% | 0.7% | |
| 旧伊達藩領 | 胆沢郡 | 119 | 98 | 21 | 55 | 64 | 0 | 109 | 10 | 0 | 0.0% | 91.6% | 8.4% | 0.0% |
| | 江刺郡 | 22 | 12 | 10 | 5 | 17 | 0 | 11 | 11 | 0 | 0.0% | 50.0% | 50.0% | 0.0% |
| | 西磐井郡 | 17 | 9 | 8 | 4 | 13 | 0 | 93 | 36 | 0 | 0.0% | 72.1% | 27.9% | 0.0% |
| | 東磐井郡 | 129 | 80 | 49 | 10 | 119 | 0 | 15 | 2 | 0 | 0.0% | 88.2% | 11.8% | 0.0% |
| | 気仙郡 | 41 | 34 | 7 | 20 | 21 | 0 | 25 | 16 | 0 | 0.0% | 61.0% | 39.0% | 0.0% |
| 計 | 328 | 233 | 95 | 94 | 234 | 0 | 253 | 75 | 0 | 0.0% | 77.1% | 22.9% | 0.0% | |
| 岩手県 | 計 | 943 | 753 | 190 | 392 | 551 | 22 | 674 | 243 | 4 | 2.3% | 71.5% | 25.8% | 0.4% |

母屋や厩の規模，説明文から農家階層や建築年代等が分かる民家も少なくない。このように既存文献から知りうる範囲の情報をデータベース化した，紙面の都合上本研究では形態的特徴を中心にその一部を報告することにとどめた。

表1に示したように今回収集したデータをみると，総数943の間取り図のうち構造間取り図が551で58.4%を占め，残りの392(41.6%)が形態間取り図であった。ただし，構造間取り図の割合は，旧伊達藩領は71.3%なのに対し，旧南部藩領では51.5%と約20%低い。特に二戸郡と岩手郡では，後述する大がかりに行われた調査が間取り形態のみの把握にとどまっているため，かなり低い(各々20.2%，35.9%)。この二つの旧郡を除いた地域では，構造間取り図の割合はいずれも50%を上回っている。

一方，戸数では844戸のうち構造図がある民家が452戸で53.6%を占め，うち旧南部藩領が238戸，旧伊達藩領が184戸となっている。また，現状と復原の両方がある民家99戸の間取り図はいずれも構造間取り図であるが，その分布をみると上閉伊郡(27戸：すべて遠野市)と東磐井郡(39戸：うち藤沢町20戸，室根村11戸)に集中しているため，間取りの変化過程を直接に知ることができる地域は限られており，他の地域についての一般的な変化過程についてはある程度推測に頼らざるを得ない。

(4) 所在地域

①集計単位としての基域の設定

民家の集計単位の基域として，昭和末時点の市町村(以下では旧市町村と呼ぶことにする)と，1955(昭和30)年前後に行われた「昭和の大合併」直前の郡(以下では旧郡と呼ぶことにする)を用いることにした。

旧市町村を基域として用いたのは，分布図を作成する際，現在の市町村数33では基域としては粗すぎることに，昭和末時点の市町村数62は戦後最も長期間(1972～91年)¹⁾続いたこと，さ

1) 1972(昭和47)年4月に二戸郡福岡町と金田一村が合併して二戸市が新設され，1991(平成3)年4月に北上市に和賀郡和賀町と江釣子村が編入されるまで，岩手県の市町村数は62であった。

らには県内や個別市町村内の民家を対象とした大がかりな調査の多くが、この期間に実施されたことを考慮したことによる。

ただし、この旧市町村の境界は、かつての南部藩領と伊達藩領の藩境と多くは重なっているものの、一致しないところが2箇所ある。現在の北上市は、1991（平成3）年に旧北上市に和賀町および江釣子村が編入されて成立した。それ以前の北上市は、1954年に和賀郡の黒沢尻町、飯豊村、二子村、更木村、鬼柳村と、胆沢郡相去村（現在は北上市相去町と大堤）、江刺郡福岡村（現在は北上市口内町）が合併して成立し、1955年には江刺郡江刺町（のちの江刺市）の一部（現北上市稲瀬町）を編入している。しかし、和賀郡域は旧南部藩領であったが、胆沢郡や江刺郡は旧伊達藩領であったため、旧北上市域は旧南部藩領と旧伊達藩領に二分されることになる。また釜石市は、1955年に旧釜石市と上閉伊郡甲子村、鶴住居村、栗橋村、気仙郡唐丹村が合併して、現在に至っているが、上閉伊郡は旧南部藩領、気仙郡は旧伊達藩領であった²⁾。

このように旧市町村の境界よりも郡の境界の方が藩境と対応しているため、郡も集計単位の基域として用いることにした。また、基域毎の実数や構成比を表で示す際、旧市町村数62では多すぎることや、後述するように本研究で対象とした市町村毎の調査戸数にはかなりのばらつきがあることも旧郡を基域に用いた理由である。むしろ、その前提として民家の外観や間取り等の特徴が、郡単位である程度の等質性を保持していることが前提となる。全国的に実施された民家緊急調査の岩手県版『岩手県の古民家』（東北大学建築学科佐藤巧研究室編 1978）では、当時の郡別に民家形態が記述されているが、その内容から判断して郡はある程度の等質性を保持していると考えて問題はないと考えられる。ただし、郡名や郡域も時代と共に複雑な変遷をとげているが、本データベースでは1955年前後に生じた「昭和の大合併」との関連から、その直前時点の旧郡を用いることとした。その結果、旧郡境と旧藩境は一致するものの、「昭和の大合併」が郡境を越えて行われた市町村が存在するため、前述した北上市や釜石市以外にも旧市町村境と旧郡境が一致せずに、同じ市町村内が複数の旧郡域から構成される市町村が出現した。

例えば、花巻市はもともとほぼ全域稗貫郡に属していたが、旧笹間村（現花巻市中笹間・北笹間・南笹間・尻平川・栃内・轟木）だけは、1955年に花巻市に編入されるまで和賀郡に属していた。また、1954年に旧胆沢郡の水沢町を中心に合併して成立した水沢市には、旧江刺郡の一部（現水沢市羽田町と黒石町）が含まれることになった。1955年に2回目の合併を行った一関市も、これまでの西磐井郡内の地域だけでなく、東磐井郡だった旧舞川村（現一関市舞川）も市域内に取り込むことになった。さらに、1955年に胆沢郡前沢町は東磐井郡生母村を、西磐井郡平泉町は東磐井郡長島村を取り込んだ合併を行っている³⁾。結果的に、上記の水沢市、一関市、前沢町、平泉町の郡境を超えた合併は、もともと県内を南北に流れる北上川を自然境界として、東岸の江刺郡、東磐井郡と、西岸の胆沢郡、西磐井郡とに分かれていたのが、西岸側の市町村が東岸の一部地域を含む形で行われた。

以上の理由により、集計単位として昭和末時点の市町村（旧市町村）と、1955年前後に行われた「昭和の大合併」直前の郡（旧郡）を用いることにした。ただし、「昭和の大合併」前から行政市であったところは、遡って市制をしく前の町制時代の郡に属すると判断した。なお、

2) ただし、本データベースには、釜石市内で旧伊達藩領内（旧唐丹村）の民家はない。

3) 本文に記載した以外では、岩手町も1955年に岩手郡の沼宮内町、川口村、一方井村と二戸郡だった田部村とが合併して成立したが、本データベースには、岩手町内で旧田部村内の民家はない。

以下で述べる具体的な市町村名や郡名は、特に断らない限り、現在ではなく上記旧市町村名、旧郡名を指していることに留意していただきたい。

また、付表の民家一覧表における民家の配列の順番は、まず旧南部藩領と旧伊達藩領に二分した上で、各領内の旧市町村毎に、旧郡としてのまとまりに配慮しながら原則として県の北に位置する市町村から南の順に配置した。ただし、前述したように旧郡と旧市町村の対応が完全な一対一対応ではないので、郡の配列は多少乱れることになった。また、同じ市町村内では調査当時の民家の所有者の氏名順に配置した。

②調査民家の分布

収集した844戸の民家の旧郡別戸数は表2に、943の間取り図の旧郡別図数は表1に示してある。旧藩領別では旧南部藩領の566戸、615図に対し、旧伊達藩領は278戸、328図で、旧南部藩領内の民家が戸数および図数でも県全体の約2/3を占めている。旧郡別では二戸郡（122戸）、岩手郡（101戸）、上閉伊郡（102戸）、胆沢郡（114戸）のように100戸を越える郡がある一方で、稗貫郡（27戸）、江刺郡（18戸）、西磐井郡（16戸）のようにかなり少ない郡も存在し、地域によってばらつきがある。

全943図の間取り図の内訳は、現状間取り図が753図と79.9%を占め、復原間取り図は190図（20.1%）に過ぎないが、地域別では旧南部藩領の復原間取り図の割合が15.4%に対し、旧伊達藩領内ではその倍近い29.0%を占めている。復原間取り図が絶対的かつまたは相対的に多く存在するのは、旧南部藩領の南部から旧伊達藩領内にかけての北上川流域であり、旧南部藩領中央部から北部にかけての地域や沿岸部は復原間取り図が少ない。このことは、今後間取りの変化過程の地域的展開を考える際に支障を来す恐れがある。

旧市町村単位では、旧郡以上にばらつきが大きい。調査民家が100戸を越える郡では、特定の旧市町村単位で集中的な調査が実施され、その調査報告書が公刊されている。例えば、二戸郡では安代町が122戸中99戸を占め、そのうち78戸が『田山村の生活』（盛岡友の会編 1935）による。胆沢郡でも114戸中74戸を胆沢町が占め、そのうち55戸が『胆沢町の古民家』（胆沢町文化財調査委員会編 1978）による。上閉伊郡では102戸中遠野市が93戸を占めるが、『遠野の

曲り家 - 砂子沢の集落 -』（遠野市教育委員会編 1977）が19戸で最も多く、前二町ほど特定資料の占有度は高くない。また、上記3市町以外では、岩手郡玉山村（29戸）、紫波郡紫波町（30戸）、東磐井郡室根村（21戸）、東磐井郡藤沢町（34戸）の調査戸数が多いが、いずれも旧市町村で独自の調査が行われたことによる。その成果は、各々『玉山の古民家』（玉山村教育委員会編 1985：本研究のデータベース掲載戸数は24戸）、『紫波町の古民家』（紫波町教育委員会編 1989：17戸）、『室根の古民家』（室根村文化財調査委員会編 1985：18戸）、『藤沢町の古民家』（東北工業大学建築学科建築史研究室編 1986：16戸）にまとめられている。

一方で、調査民家がほとんどない市町村も少なくない。調査戸数3戸以下の旧市町村を

表2 旧藩領・旧郡別、勝手の向き別戸数

| | 旧郡名 | 民家数 | (戸数) | | (構成比) | |
|-------|------|-----|------|-----|-------|-------|
| | | | 右 | 左 | 右 | 左 |
| 旧南部藩領 | 九戸郡 | 68 | 61 | 7 | 89.7% | 10.3% |
| | 二戸郡 | 122 | 60 | 62 | 49.2% | 50.8% |
| | 岩手郡 | 101 | 63 | 38 | 62.4% | 37.6% |
| | 紫波郡 | 58 | 38 | 20 | 65.5% | 34.5% |
| | 下閉伊郡 | 48 | 25 | 23 | 52.1% | 47.9% |
| | 上閉伊郡 | 102 | 4 | 98 | 3.9% | 96.1% |
| | 稗貫郡 | 27 | 11 | 16 | 40.7% | 59.3% |
| | 和賀郡 | 40 | 33 | 7 | 82.5% | 17.5% |
| | 計 | 566 | 295 | 271 | 52.1% | 47.9% |
| 旧伊達藩領 | 胆沢郡 | 114 | 111 | 3 | 97.4% | 2.6% |
| | 江刺郡 | 18 | 10 | 8 | 55.6% | 44.4% |
| | 西磐井郡 | 16 | 15 | 1 | 93.8% | 6.3% |
| | 東磐井郡 | 90 | 63 | 27 | 70.0% | 30.0% |
| | 気仙郡 | 40 | 22 | 18 | 55.0% | 45.0% |
| | 計 | 278 | 221 | 57 | 79.5% | 20.5% |
| 岩手県 | 計 | 844 | 516 | 328 | 61.1% | 38.9% |

列挙すると、岩手郡松尾村（3戸）、下閉伊郡譜代村（0戸）、田野畑村（3戸）、田老町（1戸）、新里村（0戸）、上閉伊郡大槌町（1戸）、釜石市（2戸）、稗貫郡石鳥谷町（1戸）、和賀郡江釣子村（1戸）、胆沢郡衣川村（1戸）、東磐井郡川崎村（3戸）の10市町村である。このため、これら旧市町村域内の民家の一般的な特徴を見出すことは困難だが、旧市町村面積が狭い（結果的に農家数も少ない）所が多いため、旧郡域内あるいは県内における全体的な分布パターンを読み取る際にはあまり支障はないと考えられる。

(5) 列数

列数とは、土間部分を除いた床上の居住部分が、母屋の棟方向に直交して何列に分割されているかを判断したものである。ただし、高橋（2016）の場合と同様に、旧土間部に張り出した勝手（ダイドコロ）等は列数としては数えていない。旧土間部に張り出した床上部を一つの列と判断すると、例えば3列型の民家には、旧土間部に勝手等が張り出した民家と、そのような張り出し部がない民家が同じ列数になってしまう。そうすると、同じ列数の民家でも各列の機能（役割）は異なってしまう、結果的に間取りタイプが複雑化し、タイプ相互の比較が困難となる。このため、旧土間部に張り出した勝手（ダイドコロ）等がある列は、間取りタイプを判断する要素からは除いた。

2列型民家は、基本的に下手列に広間、上手列に座敷があるが、寝室は間取りタイプによって下手列にある場合と上手列にある場合とに分けられる。また、広間位置や座敷の位置・数によっても様々なタイプに分けることができる。3列型は2列型の基本的な間取りに加えて、中手列に中の間や寝室が置かれるため、家屋規模は2列型よりも一般的に大きくなる。

表1に示したように、943の間取り図をその列数によって分類すると⁴⁾、2列型が674図で71.5%を占め、次いで3列型が243図（25.8%）が続き、1列型（22図、2.3%）と4列型（4図、0.4%）は極めて少ない。地域的には、2列型は90%以上の高率を示す九戸郡、岩手郡、胆沢郡をはじめとして、県北部と南部で高い割合を示している。一方、県中央部の上閉伊郡、和賀郡では3列型が60%以上を占め、稗貫郡や江刺郡でも約半数を占めている。このように旧南部藩領でも藩境に近い県中央部に3列型民家が多くみられる。なぜこれらの地域に規模が大きい3列型民家が特に多くみられるのかについては、今後の検討課題としたい。

(6) 勝手

南部曲家には右厩タイプと左厩タイプがあり、しかも前者の場合母屋の多くは東面するのに対し、後者は南面する場合が多い。また、地域的には前者は盛岡周辺の雫石や紫波などの北上川流域に、後者は遠野地方などの北上山地に多いことが、小倉（1934）、森口（1961）、山影（1971）、米田（1982）ら多くの研究で指摘されている。また、山影（1971 p.3）によれば、紫波地方でも北上川右岸（西岸）は左座敷（右厩）、左岸（東岸）は右座敷（左厩）であり、さらに同じ右岸でも上位段丘は左座敷、下位段丘は右座敷であるという。しかし、これまでの研究の多くは必ずしも統計的な裏付けがあるわけではなく、またそれらの分布の把握も不十分であり、特に県域レベルでのマクロな分布をとらえる試みはまだなされていない（高橋 1992 pp.196-197）。

4) 同じ民家でも復元間取り図と現状間取り図で列数が異なる民家が7件（民家番号335, 419, 475, 529, 558, 580, 733）ある。1件（558）を除いて、空間の細分化に伴う部屋数の増加が、列数を1から2、または2から3へと増加させている。

今回作成したデータベースに基づく、土間や厩が母屋に向かって右側に付く右勝手が、県全体では844戸中516戸（61.1%）で、左側に付く左勝手が328戸（38.9%）であった（表2）。ただし、旧南部藩領では両者がほぼ拮抗しているのに対し、旧伊達藩領で右勝手が約80%を占めている。しかし、同じ旧藩領内でも旧郡や旧市町村別にみると、かなりその割合が異なっている。旧南部藩領でも九戸郡や和賀郡の右勝手率は80%を越えている。また旧市町村別では、岩手郡雫石町と紫波郡矢巾町で90%を越えており、北上川西岸地域では右勝手が卓越しているとみて間違いなだろう。一方北上川東岸地域では左勝手が90%以上を占めている上閉伊郡遠野市、宮守村や稗貫郡大迫町を中心に、左勝手が広がっていると推測されるが、旧郡域や旧市町村域が北上川を挟んで広がる地域が少なくないため、よりミクロな分布図を作成をしてみないと正確なところは分からない。また、二戸郡や沿岸部を中心とした下閉伊郡では、市町村レベルでも両者が拮抗している。一方、右勝手が卓越している旧伊達藩領でも、旧南部藩領と接している江刺郡江刺市では左勝手の方が多く⁵⁾、沿岸部の気仙郡では右勝手と左勝手が拮抗しているなど地域差が大きい。結局、県域全体について、マクロな分布をふまえた上で、よりミクロな分布についても検討を行い、勝手の違いを生みだしたマクロ要因やミクロ要因を明らかにする必要がある。

(7) 家屋形態

①曲家の分布

表3には家屋形態別の分布を示したが、復原間取り図と現状間取り図とで家屋形態が異なる民家については、例えば「直家→曲家」のように区別して示してある。表を見ると、現状かつまたは復原の間取り図が曲家である民家は、844戸中31.5%にあたる266戸であるが、そのほと

表3 旧藩領・旧郡別、家屋形態別戸数

| | 旧郡名 | (戸数) | | | | | | (構成比) | | | | | |
|-------|------|------|-----------|----------|----------|------------|-----------|-------|-----------|----------|------------|-----------|------|
| | | 曲家 | 直家→ 曲家 | 中門造 風 | 内厩 直家 | 内厩無 し直家 | その他 直家 | 曲家 | 直家→ 曲家 | 中門造 風 | 内厩無 し直家 | その他 直家 | |
| 旧南部藩領 | 九戸郡 | 20 | 0 | 0 | 46 | 1 | 1 | 29.4% | 0.0% | 0.0% | 67.6% | 1.5% | 1.5% |
| | 二戸郡 | 8 | 0 | 0 | 101 | 13 | 0 | 6.6% | 0.0% | 0.0% | 82.8% | 10.7% | 0.0% |
| | 岩手郡 | 69 | 0 | 1 | 26 | 5 | 0 | 68.3% | 0.0% | 1.0% | 25.7% | 5.0% | 0.0% |
| | 紫波郡 | 42 | 0 | 0 | 16 | 0 | 0 | 72.4% | 0.0% | 0.0% | 27.6% | 0.0% | 0.0% |
| | 下閉伊郡 | 32 | 0 | 0 | 5 | 11 | 0 | 66.7% | 0.0% | 0.0% | 10.4% | 22.9% | 0.0% |
| | 上閉伊郡 | 79 | 2 | 0 | 6 | 13 | 2 | 77.5% | 2.0% | 0.0% | 5.9% | 12.7% | 2.0% |
| | 稗貫郡 | 9 | 0 | 0 | 18 | 0 | 0 | 33.3% | 0.0% | 0.0% | 66.7% | 0.0% | 0.0% |
| | 和賀郡 | 0 | 2 | 1 | 33 | 2 | 2 | 0.0% | 5.0% | 2.5% | 82.5% | 5.0% | 5.0% |
| 計 | 259 | 4 | 2 | 251 | 45 | 5 | 45.8% | 0.7% | 0.4% | 44.3% | 8.0% | 0.9% | |
| 旧伊達藩領 | 胆沢郡 | 0 | 0 | 0 | 9 | 105 | 0 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 7.9% | 92.1% | 0.0% |
| | 江刺郡 | 0 | 0 | 0 | 2 | 16 | 0 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 11.1% | 88.9% | 0.0% |
| | 西磐井郡 | 1 | 0 | 0 | 0 | 14 | 1 | 6.3% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 87.5% | 6.3% |
| | 東磐井郡 | 0 | 0 | 0 | 0 | 90 | 0 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% | 0.0% |
| | 気仙郡 | 0 | 0 | 0 | 0 | 40 | 0 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% | 0.0% |
| | 計 | 1 | 0 | 0 | 11 | 265 | 1 | 0.4% | 0.0% | 0.0% | 4.0% | 95.3% | 0.4% |
| 岩手県 | 計 | 260 | 4 | 2 | 262 | 310 | 6 | 30.8% | 0.5% | 0.2% | 31.0% | 36.7% | 0.7% |

注)「その他直家」には、厩所在不明直家2戸、「内厩無し直家→内厩直家」3戸、「内厩直家→内厩無し直家」1戸の計6戸が含まれている。

5) 江刺市内の調査民家9戸中6戸が左勝手だが、サンプル数が少ないことが影響している可能性もある。

んどが旧南部藩領内に存在し、旧伊達藩領内にあるのは西磐井郡平泉町にある1戸（民家番号704）のみであった。ただし、この1戸は「直家の形に作業場（こなし場）を突き出した形の建物」（今野 2008 p.51）であり、いわゆる南部曲家ではない。つまり、これまでの研究でも明らかにされているとおり、旧伊達藩領内には南部曲家はなく、南部曲家は旧南部藩特有の民家形態といえる。

一方、旧南部藩領内には、南部曲家とは言えない中門造風民家が2戸存在する。和賀郡江釣子村の及川家（民家番号543）は、菊地（2003 p.66）によると「外観は「南部の曲り屋」に似ているが、平面構成は盛岡藩の直ご屋の上手に、座敷を張り出した形となっている。日本海側にみられる座敷中門に近い平面形状である」。また、岩手郡雫石町の滝沢家（民家番号282）も中門造風民家ではあるが、文化財保護委員会編（1965 p.51）によると、「曲屋と中門造の相の子的な家」と判断できる。その理由は、「上手に中門、下手に曲り部分を突出したこの家の外観は秋田県に多い両中門造によく似ている」が、「上手の突出部はどちらの地方でも「ちゅうもん」と呼び外観も或程度似ているし、壁の多い室になることも同じ」なため、「上手の中門については、秋田の中門造の系統をひいているとみることができる」と同時に、「下手の突出部が、どちらにも馬屋がある点は共通しているが」、「機能的にはかなりの違いがあるわけで、この点では雫石の家は曲屋のうちに入る」と考えられるからである。しかしながら、いずれの民家も日本海側の中門造の影響を多少なりとも影響を受けていると考えられる。

岩手県の旧南部藩領内の調査民家566戸中、南部曲家は上記2戸を除いた263戸で、全体の46.5%を占めるが占めるが、旧郡別にみるとその割合は大きく異なっている。中央部の岩手郡、紫波郡、下閉伊郡、上閉伊郡が70%前後の高率を示すのに対し、北部（九戸郡、二戸郡）および南西部（稗貫郡、和賀郡）は30%前後あるいはそれ以下の低い値を示している⁶⁾。市町村別にみても前者の4郡内の旧市町村で、曲家より直家の方が多い旧市町村は1つもない。その中でも曲家の分布の中心は、盛岡市を中心とする岩手町から紫波町にかけての地域と遠野市を中心とする地域である。九戸郡と二戸郡内にも少なからず曲家は存在するが、青森県境に近い市町村（種市町、大野村、軽米町）および秋田県境に近い市町村（浄法寺町、安代町）の調査民家に、曲家はほとんど存在しない。一方旧南部藩領南西部（稗貫郡、和賀郡）でも、盛岡と遠野を結ぶ街道沿いにあたる大迫町を除いて、曲家はほとんどない。このように旧南部藩領特有の民家形態でありながら、県の北部や藩の南西部で少ない理由については、これまでの研究でも明らかにされていないが、今回収集したデータをもとに地域間の間取りタイプの違いやその変遷過程、さらには馬産との関連等を分析することで明らかになる可能性があり、今後の課題としたい。

②直家の分布

次に直家については、旧南部藩領でも調査民家の50%強を占めているが、旧伊達藩領では実質的に100%直家である。ただし、これまでは旧南部藩領は内厩タイプの直家（以下では内厩直家と呼ぶことにする）なのに対して、旧伊達藩領は外厩タイプの直家（以下では外厩直家と呼ぶ）で、藩によって直家のタイプも異なると言われてきた（森口 1983 p.109, 杉浦 1989 p.21, 草野 1991 p.20など）。

しかし、表3をみると分かるように、旧南部藩領内にある現状かつまたは復原間取り図が直

6) 改めて言うまでもないことだが、曲家と直家の割合は、あくまでも調査対象となった民家に限っての数字であり、全民家を対象とした実際の割合とは異なる。ただし、これら4郡は実際にも他の地域に比べて相対的に曲家が多いということは、これまでの研究からみても疑いが無い。

家である305戸中、内厩を持たない直家（以下では内厩無し直家と呼ぶことにする⁷⁾）が45戸（14.8%）あった。また、旧伊達藩領内でも胆沢郡と江刺郡では、内厩直家が全体の1割弱（2郡合わせて直家132戸中11戸が内厩直家）を占めていることが分かる。

まず、前者の45戸のうち、以前は曲家や内厩直家であったが調査時点では厩が撤去されていた民家が7戸、屋外に厩があるかどうか判断できない家屋が13戸あった。残り25戸のうち13戸は、外にも厩が無いことが明らかな民家（以下では、厩無し直家と呼ぶことにする）で、農民の階層が分かる11戸中6戸が小作農または分家であった。つまり、零細農家は屋内はむろんのこと屋外にも厩がなかった（あるいはもてなかった）割合が高かったことを示していると考えられる。また、内厩が無く外厩のみをもつ12戸についてみると、建築年代がわかる8戸すべてが明治時代以降の建築であった。このことから、比較的新しく建てられた民家は何らかの理由で（例えば、新しい住宅への改善、馬から牛への家畜の転換など）、厩（畜舎）の外部的化が行われたものと推察される。

いずれにせよ、旧南部藩領内の一般的な直家は内厩タイプであり、厩無し直家や外厩直家は例外的存在あるいは時代の変化に対応して新しく出現したタイプと言える。ただし、内厩直家や南部曲家も遡れば厩無し直家や外厩直家から派生して生まれたことは疑いなく、この点に関しては稿を改めて論じてみたい。

一方旧伊達藩領内には、内厩直家が江刺郡（北上市稲瀬町）の2戸、胆沢郡（胆沢町）の9戸の計11戸に加えて、西磐井郡（一関市）に厩無し直家（復原）から内厩直家（現状）に変わった1戸の計12戸が存在する。

まず、北上市稲瀬町は北上川東岸沿いの旧伊達藩領最北端地区で、藩境を挟んで旧南部藩領の北上市立花地区と接している。この点から旧南部藩領の文化要素が藩境を越えて、稲瀬町にも流入したことが考えられるが、この2戸（民家番号573, 574）以外には、江刺郡内の近隣地域の内厩直家の例は報告されていないので、はっきりしたことは分からない。

胆沢町の内厩直家に関しては、菊池（2003 p.78）が「旧仙台藩では、厩は別戸で、主屋は直ご屋が一般的である。しかし胆沢町の多雪地帯である尿前、蜂谷、嵐江は記録からみるかぎり旧仙台藩では唯一の内馬屋形式をとって」いると述べている。この地区は胆沢町若柳地区北西部にあたり、奥羽山脈を挟んで水沢市と秋田県仙北地方とを結ぶ「仙北道」が明治の中頃まで通っており、下嵐江はその要衝の地であった（胆沢町教育委員会編 1993 pp.1-2）。また、胆沢町教育委員会編（1993 p.26）によると、馬留坂以西の地区（尿前、蜂谷、谷子沢、下嵐江）では、母屋と馬屋とは同じ屋根の下に構築されているが⁸⁾、以東の馬留坂や迎市野々では、廊下と呼ばれる通路で繋がれた別棟になっている⁹⁾と述べられている。このように内厩直家は、胆沢町内でも町内北西部の奥羽山脈に抱かれた地域に限定されている¹⁰⁾。また胆沢町と旧南部藩との境の間にある旧胆沢郡の北上市相去町や金ヶ崎町にある計20戸の民家はすべて内厩無し直家なので、旧南部藩領からの影響は考えにくい。池田（1986 p.13）が指摘しているように、「奥羽山脈の山ひだで冬季、雪が深いため」内厩方式を採用したものと考えられる。

7) 間取り図からは内厩がないことは分かっても、外厩があるかどうかは屋敷配置図や外厩に関する記述がないと判断がつかない。このため、外厩直家か厩無し直家かの判断がつかないため、内厩がない直家を「内厩無し直家」と呼ぶことにした。

8) 民家番号647, 651, 659, 660, 662, 673, 674の民家がこれに該当する。

9) 民家番号635, 638, 656の民家がこれに該当する。

10) ただし、馬留坂以东でも、東へ10km以上離れている若柳相馬壇に内厩直家（民家番号689）があることが報告されている（池田1981 p.165）。

また、同じ奥羽山系にある旧南部藩領内の多雪地域である沢内村・湯田町にみられる特徴、すなわち母屋表側に玄関部（入口部分）が突出した民家¹¹⁾や、裏側（あるいは妻側）に水屋が突出した民家¹²⁾が、胆沢町若柳地区北西部にもみられることも共通している。むろん、これらの点に関しては、秋田県側からの影響が関連していると考えられる。

なお、西磐井郡一関市にある1戸の内厩直家（民家番号710）は、もとは母屋の下手に5～6尺離れて建っていた別戸の厩を、調査当時（1963-64年）の当主が知っているほど近年に改造したものである（文化財保護委員会編 1965 p.95）ので、例外と言えよう。

以上のことから、旧伊達藩領の直家は原則外厩タイプであり、旧南部藩領と接する一部地区や奥羽山脈を挟んで旧久保田藩領と接する多雪地域では、他藩領地域の影響を受けた内厩直家が例外的に存在すると考えられるが、さらなる検討が必要である。

（8）広間

下手列にある広間の位置によって、前広間、奥広間、中広間、全広間、その他（不明を含む）に分類した。一般的に前広間タイプは広間の奥が寝室に、奥広間タイプは広間の前に次の間が取られることが多い。中広間タイプは奥に寝室、前に次の間が取られやすい。全広間と名付けたタイプは、下手列全体が1室の広間からなるタイプである。

広間の有無や位置は、基本的に部屋の呼称（ジョウイ、オカミ等）と大きさに基づいて判断したが、実際には単純に判断できない場合がある。例えば、菊池（2003）は和賀郡湯田町の菅原家（民家番号562）について、「土間のかみて奥が台所で、ここが日常生活の部屋である。（中略）常居は接客用の部屋であった。」と述べている。菅原家をはじめとして和賀郡の湯田町や沢内村の3列型民家には、常居が母屋の下手列前側にあり、下手列奥側に台所または居間と呼ばれる広い部屋があるタイプの民家が存在する。菅原家を調査した佐藤も「和賀郡湯田町、沢内村の「居間」（菅原家の「台所」）を「常居」の語に、「常居」の語を「居間」、「茶の間」、「中の間」と同義語とみれば、ここでの「前-常居」型を「後-常居」型と読み易えることも可能」（佐藤巧・古建築研究会編 2005 p.122）と述べている。この和賀郡の民家の場合には、間取りについての説明から、呼称よりも実質的な部屋の機能を優先して奥広間と判断したが、そのような情報がない場合も多く、近隣地域の状況や間取りの構造的要素などを総合的に判断する必要がある。したがって、今後の検討次第では、個々の民家の広間タイプの判断が変わる可能性がある。この点は次に述べる座敷タイプも同様である。

旧郡別の広間タイプの間取り図の数を集計した表4をみると、旧郡によってタイプが明確に分かれていることが分かる。旧南部藩領でも中央部から北部にかけての地域（九戸郡、二戸郡、岩手郡、紫波郡、下閉伊郡）は奥広間が極めて少なく、前広間が8割前後あるいはそれ以上を占めている。それに対して、気仙郡を除く旧伊達藩領と旧南部藩領の稗貫郡および和賀郡には前広間がほとんどない。稗貫郡と和賀郡は大半が奥広間で、旧伊達藩領では奥広間が中心だが、中広間も比較的多い。上閉伊郡（特に遠野市）では奥広間が多いが、前広間も少なからず混在している。

以上のように、広間タイプが地域によって明らかに異なることは、地域による文化系統の違いを反映している可能性が高い。ただし、その違いは旧藩の分布とはあまり一致しないもの

11) 民家番号647, 651, 659, 660の民家がこれに該当する。なお、沢内村や湯田町では入口の突出部分を「中門（ちゅうもん）」、胆沢町では「戸の口」と呼んでいる。

12) 民家番号651, 662, 674の民家がこれに該当する。

表4 旧藩領・旧郡別、広間タイプ別間取り図数

| | 旧郡名 | 総数 | (図数) | | | | | (構成比) | | | | |
|-------|------|-----|------|-----|-----|-----|-------|-------|--------|-------|-------|------|
| | | | 前広間 | 奥広間 | 中広間 | 全広間 | その他 | 前広間 | 奥広間 | 中広間 | 全広間 | その他 |
| 旧南部藩領 | 九戸郡 | 74 | 70 | 0 | 2 | 0 | 2 | 94.6% | 0.0% | 2.7% | 0.0% | 2.7% |
| | 二戸郡 | 124 | 109 | 7 | 2 | 6 | 0 | 87.9% | 5.6% | 1.6% | 4.8% | 0.0% |
| | 岩手郡 | 103 | 92 | 0 | 3 | 6 | 2 | 89.3% | 0.0% | 2.9% | 5.8% | 1.9% |
| | 紫波郡 | 60 | 46 | 5 | 8 | 1 | 0 | 76.7% | 8.3% | 13.3% | 1.7% | 0.0% |
| | 下閉伊郡 | 51 | 40 | 3 | 1 | 5 | 2 | 78.4% | 5.9% | 2.0% | 9.8% | 3.9% |
| | 上閉伊郡 | 129 | 25 | 89 | 0 | 13 | 2 | 19.4% | 69.0% | 0.0% | 10.1% | 1.6% |
| | 稗貫郡 | 28 | 0 | 28 | 0 | 0 | 0 | 0.0% | 100.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | 和賀郡 | 46 | 0 | 43 | 0 | 0 | 3 | 0.0% | 93.5% | 0.0% | 0.0% | 6.5% |
| | 計 | 615 | 382 | 175 | 16 | 31 | 11 | 62.1% | 28.5% | 2.6% | 5.0% | 1.8% |
| 旧伊達藩領 | 胆沢郡 | 119 | 2 | 71 | 44 | 1 | 1 | 1.7% | 59.7% | 37.0% | 0.8% | 0.8% |
| | 江刺郡 | 22 | 0 | 18 | 4 | 0 | 0 | 0.0% | 81.8% | 18.2% | 0.0% | 0.0% |
| | 西磐井郡 | 129 | 4 | 76 | 47 | 1 | 1 | 3.1% | 58.9% | 36.4% | 0.8% | 0.8% |
| | 東磐井郡 | 17 | 1 | 11 | 2 | 2 | 1 | 5.9% | 64.7% | 11.8% | 11.8% | 5.9% |
| | 気仙郡 | 41 | 38 | 3 | 0 | 0 | 0 | 92.7% | 7.3% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | 計 | 328 | 45 | 179 | 97 | 4 | 3 | 13.7% | 54.6% | 29.6% | 1.2% | 0.9% |
| 岩手県 計 | 943 | 427 | 354 | 113 | 35 | 14 | 45.3% | 37.5% | 12.0% | 3.7% | 1.5% | |

の、旧藩の影響をまったく否定することもできない。また、一般的に時代と共に空間が細分化されいくこと考慮すると、「全広間」→「前広間または奥広間」→「中広間」という過程が想定される。しかも、新しいタイプが空間的に伝播していく過程で、発展段階の違いが空間にも投影されてくる。つまり、高橋（2016 p.15）が述べたように、「岩手県内の伝統的民家（農家）の間取りは、文化系統の相違による地域的な違いが大きい。しかし、同じ文化領域内でも文化要素の伝播時期・受容時期が地域や農家階層によって異なるため、同じ時代に建てられた民家でも間取りは地域や階層によって異なっている。つまり、同じ文化領域内での地域差や階層差は、発展段階の差となって現れてくると考えられる」。このため、例えば中広間という同じ形態でも、その系統が異なる可能性がある。したがって、今後は広間やそれに隣接する部屋も含めて間取りの構造的要素を総合的に判断する必要がある。

(9) 座敷

座敷は、2列型民家の場合は上手列に、3列型民家の場合は上手列だけでなく、中手列にもある場合が多い。ここでは2列型民家および3列型民家の両者に共通してみられる上手列に注目して、大きくは鍵座敷¹³⁾前座敷、奥座敷、全座敷、その他（不明を含む）に分類した。鍵座敷タイプは、上手列が2室または3室の座敷のみから構成されている。前座敷タイプは、母屋の前側に1室または2室の座敷を配置しているタイプで、座敷奥はほとんどが寝室となっている。奥座敷タイプは、母屋奥側に1室または2室の座敷を配置しているタイプで、座敷前はほとんどが寝室となっている。全座敷タイプは、上手列全体が1室の座敷からなるタイプである。

座敷の位置や数によるタイプ分類は、広間の場合と同様に原則的には部屋の呼称（ザシキ、デイなど）によったが、ザシキと呼ばれる部屋でも実質的に寝室である場合が少なくないた

13) 川島（1973 p.257）によれば、「鍵座敷」とは、「上座敷と下座敷と二つの座敷が、家の上み手にあり、居間と鍵型に配置された形式のもの。また多間取りで、三つの座敷が鍵型（L字型）に配置されたものをいう」。

表5 旧藩領・旧郡別、座敷タイプ別間取り図数

| | 旧郡名 | 総数 | (図数) | | | | | (構成比) | | | | |
|-------|------|-----|------|-----|-----|-----|-------|-------|-------|-------|------|-------|
| | | | 鍵座敷 | 前座敷 | 奥座敷 | 全座敷 | その他 | 鍵座敷 | 前座敷 | 奥座敷 | 全座敷 | その他 |
| 旧南部藩領 | 九戸郡 | 74 | 60 | 11 | 0 | 1 | 2 | 81.1% | 14.9% | 0.0% | 1.4% | 2.7% |
| | 二戸郡 | 124 | 83 | 9 | 6 | 7 | 19 | 66.9% | 7.3% | 4.8% | 5.6% | 15.3% |
| | 岩手郡 | 103 | 76 | 4 | 16 | 1 | 6 | 73.8% | 3.9% | 15.5% | 1.0% | 5.8% |
| | 紫波郡 | 60 | 21 | 2 | 34 | 0 | 3 | 35.0% | 3.3% | 56.7% | 0.0% | 5.0% |
| | 下閉伊郡 | 51 | 46 | 3 | 1 | 1 | 0 | 90.2% | 5.9% | 2.0% | 2.0% | 0.0% |
| | 上閉伊郡 | 129 | 97 | 24 | 1 | 2 | 5 | 75.2% | 18.6% | 0.8% | 1.6% | 3.9% |
| | 稗貫郡 | 28 | 12 | 14 | 0 | 0 | 2 | 42.9% | 50.0% | 0.0% | 0.0% | 7.1% |
| | 和賀郡 | 46 | 10 | 35 | 0 | 0 | 1 | 21.7% | 76.1% | 0.0% | 0.0% | 2.2% |
| | 計 | 615 | 405 | 102 | 58 | 12 | 38 | 65.9% | 16.6% | 9.4% | 2.0% | 6.2% |
| 旧伊達藩領 | 胆沢郡 | 119 | 4 | 115 | 0 | 0 | 0 | 3.4% | 96.6% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | 江刺郡 | 22 | 1 | 21 | 0 | 0 | 0 | 4.5% | 95.5% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | 西磐井郡 | 129 | 17 | 108 | 2 | 2 | 0 | 13.2% | 83.7% | 1.6% | 1.6% | 0.0% |
| | 東磐井郡 | 17 | 2 | 14 | 0 | 0 | 1 | 11.8% | 82.4% | 0.0% | 0.0% | 5.9% |
| | 気仙郡 | 41 | 35 | 4 | 0 | 2 | 0 | 85.4% | 9.8% | 0.0% | 4.9% | 0.0% |
| | 計 | 328 | 59 | 262 | 2 | 4 | 1 | 18.0% | 79.9% | 0.6% | 1.2% | 0.3% |
| 岩手県 計 | 943 | 464 | 364 | 60 | 16 | 39 | 49.2% | 38.6% | 6.4% | 1.7% | 4.1% | |

め、部屋の開放度（あるいは逆に閉鎖度）も参考にした。例えば高橋（1995 p.275）が指摘したように、岩手郡岩手町の佐々木家（民家番号202）は上手奥に「かみざしき」、前面に「しもざしき」を配置しているが、大岡はこれを鍵座敷とみなしたのに対し（青木・大岡 1987 p.76）、佐藤は『岩手県の古民家』で、佐々木家の「しもざしき」は極めて閉鎖的な部屋で、「しもざしき」とは呼ばれていても実質は未だねべやであり、「かみざしき」と続いた、座敷構えとしての2座敷構成の体を未だ成していない例である」（東北大学建築学科佐藤巧研究室編 1978 p.81）と述べ、奥座敷に分類している。したがって、座敷タイプの場合も、呼称よりも実質的な部屋の機能を優先して判断したが、すべての民家でそのような判断が可能わけではないので、今後は広間の場合と同様に、近隣地域の状況や間取りの構造的要素などを含めて総合的に判断する必要がある。

主に部屋呼称を用いて間取り図をタイプ分類した表5を見ると、旧南部藩領では鍵座敷が約2/3を占め、旧伊達藩領では約8割が前座敷で占められている。広間タイプと組み合わせると、旧南部藩領では前広間鍵座敷タイプ、旧伊達藩領では奥広間前座敷タイプが卓越している。しかし、旧南部藩領でも、曲家がほとんどみられずかつ奥広間が卓越する稗貫郡と和賀郡では、鍵座敷よりも前座敷の方が多くみられ、奥広間前座敷タイプが多い。また、旧伊達藩領でも気仙郡は前広間鍵座敷タイプがほとんどである。このように座敷タイプは広間タイプと密接に関連して、明らかに文化系統が異なる二大タイプとも言える間取りが認められる。その二大タイプの分布は旧藩との関連がうかがわれるが、その分布が藩境で分かれているわけではない。さらに、紫波郡では前広間が卓越しているが、奥座敷が過半を占めており、上記二大タイプとは異なる間取りタイプが生じている。高橋（2016 p.14）が述べたように、これらのタイプと文化系統や発展段階との関連がいまだ明らかとなっておらず、これも急務かつ重要な課題の一つである。

3. おわりに

以上のように、岩手県内の民家形態や間取りの幾何学的な形態を中心として、各要素の県内や旧藩領内での地域的な分布状況を概観してきたが、様々な課題があることが明らかとなった。特に間取りに関しては、間取りタイプの違いが文化系統に基づく相違なのか、あるいは発展段階に基づく差異なのかを明確に識別する必要がある、そのためには間取りの幾何学的な形態だけでなく、空間的構造に関する要素も加えて総合的に判断する必要がある。

そこで、今後はまず本研究で取り上げた個々の要素について、より詳細な分布図を作成すると同時に要素毎に見られる異なる形態やタイプ間の関連を検討する予定である。さらに広間と座敷の関係に認められたように、異なる要素間の相互関連についても明らかにすることが必要である。そうすることで、異なる間取りの文化系統の中で時代と共にどのように発展（変遷）してきたのかが明らかとなると考えられる。また、そうした研究の流れの中で南部曲家がどのようにうまれたのか、なぜ地域によって異なるタイプの曲家が存在するのかという疑問にも答えることが出来るようになると考えられる。今後は今回構築したデータベースをもとにして、これらの疑問に一つ一つ答えていきたいと考えている。

参考文献

- 青木正夫・大岡敏昭（1987）盛岡，仙台藩の境界地域における農家住宅の特徴的分布形態と地域的条件－旧藩領域からみた江戸時代後期～明治期における農家住宅平面構成の地域的相違に関する実証的研究（その4）－，日本建築学会計画系論文報告集，377，pp.68-82
- 池田雅美（1981）『みちのくの風土』，古今書院
- 池田雅美（1986）『豪族集落の研究』，大明堂
- 胆沢町教育委員会編（1993）『胆沢ダム建設に伴う緊急民俗調査報告書』，胆沢町・胆沢町教育委員会
- 小倉強（1934）南部の曲家，国際建築，10-7，pp.35-43
- 川島宙次（1973）『減びゆく民家－間取り・構造・内部』，主婦と生活社
- 菊地憲夫（2003）『岩手の古民家建築』，胆江日日新聞社
- 米田藤博（1982）岩手県の現存曲り家について，地理学報，21，pp.11-23
- 今野幸正（2008）『旧南部藩領の消え行く茅葺「曲り家」』，川口印刷工業
- 草野和夫（1991）『東北民家史研究』，中央公論美術出版
- 佐藤巧・古建築研究会編（2005）『旧小野寺家住宅旧星川家住宅旧菅原家住宅復原修理報告書』，北上市教育委員会
- 杉浦直（1989）旧藩境と地域性－岩手の文化地理序説－，いわて地域科学，3，pp.16-23
- 高橋宏一（1992）南部曲家研究の展望と課題；1991年度教育研究学内特別経費研究報告『文化の基礎理論と諸相の研究』，岩手大学人文社会科学部総合研究委員会，pp.171-227所収
- 高橋宏一（1995）南部曲り家にかかわる間取り分類について；渡邊基編『岩手の地域と社会－変貌と課題を考える』，岩手大学人文社会科学部総合科目「岩手の研究班」，pp.257-280所収
- 高橋宏一（2016）岩手県における伝統的民家の間取りの文化系統と発展過程についての試論，アルテス リベラレス（岩手大学人文社会科学部紀要），97，pp.1-16
- 東北大学建築学科佐藤巧研究室編（1978）『岩手県の古民家』，岩手県教育委員会
- 文化財保護委員会編（1965）『岩手県の民家』，文化財建造物特別調査報告
- 森口多里（1961）岩手のうまや，民俗建築，35，pp.1-5
- 森口多里（1983）岩手の厩と俗信；森口多里他『北海道・東北地方の住い習俗』，明玄書房，pp.103-130所収
- 山影長栄（1971）南部曲家の従来の研究に対する2，3の疑問，社会科研究，13-2，pp.1-5

間取り図掲載文献

- 相去村誌編集委員会編, 1992, 『相去村誌－北上市合併までの歩み－』, 相去村誌編集委員会
- 青木正夫・大岡敏昭, 1987, 盛岡・仙台藩の境界地域における農家住宅の特徴的分布形態と地域条件, 日本建築学会計画系論文報告集, 377, pp.68-82
- 安代町史編さん委員会編, 2009, 『安代町史 (民俗編)』, 八幡平市
- 穴持自治会編, 2010, 『郷土史 六原『穴持』』, 穴持自治会
- 阿部和彦, 1993, 東北地方の人と馬にかかわる風土－岩手県遠野市の馬屋のある民家を中心に, 山森芳郎他編『図説日本の馬と人の生活誌』, 原書房, pp.13-31所収
- 阿部和彦・小山祐司・佐藤巧, 1990, 江戸時代中期以降における東北地方民家の発展過程について－規模・間取の発生的考察－, 東北大学建築学報, 29, pp.1-46
- 阿部三夫, 1990, 『矢巾町の歴史』, 熊谷印刷出版部
- 有賀喜佐衛門, 1939, 『南部二戸郡石神村に於ける大家族制度と名子制度』, アチックミュージアム
- 池田雅美, 1981, 『みちのくの風土』, 古今書院
- 池田雅美, 1986, 『豪族集落の研究』, 大明堂
- 胆沢町編, 1985, 『胆沢町史Ⅷ民俗編1』, 胆沢町史刊行会
- 胆沢町教育委員会編, 1993, 『胆沢ダム建設に伴う緊急民俗調査報告書』, 胆沢町・胆沢町教育委員会
- 胆沢町教育委員会編, 2000, 『本庄家旧宅解体調査報告書』, 胆沢町教育委員会
- 胆沢町文化財調査委員会編, 1978, 『胆沢町の古民家』, 胆沢町教育委員会
- 石原憲治, 1959, 東北の民家の旅, 民俗建築, 25・26, pp.43-53
- 石原憲治, 1973, 『日本農民建築 第8輯』(改訂復刻版), 南洋堂書店
- 一関市史編纂委員会編, 1977, 『一関市史 第4巻』, 一関市
- 一関市史編纂委員会編, 1978, 『一関市史 第2巻』, 一関市
- 一戸二郎, 1981, 『盛岡の民家』(盛岡市文化財シリーズ第6集), 盛岡市教育委員会
- 一戸町教育委員会編, 2011, 『朴館家住宅調査報告書』, 一戸町教育委員会
- 一戸町町誌編纂委員会編, 1986, 『一戸町誌 (下巻)』, 一戸町
- 伊藤ていじ, 1958, 『日本の民家 陸羽・岩代の民家』, 美術出版社
- 伊藤裕久, 1987, 近世東北農村における分家屋敷の形成－農村集落の空間構成に関する研究 その8, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F, pp.945-946
- 岩手県教育委員会編, 1966, 『岩手の民俗資料』, 文化財調査報告第16集, 岩手県教育委員会
- 岩手県教育委員会編, 1976, 『久慈市山根の民俗』, 文化財調査報告集第22集, 岩手県教育委員会
- 岩手県教育委員会編, 2007, 『岩手県の近代和風建築』, 岩手県教育委員会
- 岩手県教育会編, 1935, 『民家の研究』, 岩手県教育会
- 岩手県教育会東磐井郡編, 1935, 『藤沢の民家』, 岩手県教育会
- 岩手県立博物館編, 1986, 『安代町地域総合調査報告書第1集 安代の民俗』, 岩手県立博物館
- 岩手町史編纂委員会編, 1976, 『岩手町史』, 岩手町史刊行会
- 梅地要・後藤治, 2002, 岩手県藤沢町千田邸について, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-2, pp.165-166
- 江刺市教育委員会編, 1967, 『重要文化財 旧後藤家住宅保存修理工事報告書』, 江刺市教育委員会
- 遠藤輝夫, 2004, 旧沼田家と鈴木家の住宅－一関市－, 大島英介監修『図説 胆江・両磐の歴史』, 郷土出版社, pp.194-195所収
- 及川勝穂, 1958, 遠野地方に於ける曲家の民俗, 岩手史学研究, 27, pp.64-70
- 大岡敏昭, 1990, 『藩制と民家－藩領域からみた民家の成立と発展－』, 相模書房
- 大河直躬, 1976, 旧工藤家住宅, 太田博太郎編『日本建築史基礎資料集成 21 民家』, 中央公論美術出版, pp.12-14所収
- 太田村誌編纂委員会編, 1935, 『朝暁に額づく』, 太田村役場
- 大野敏・林大祐・野原卓, 2012a, 堀立柱を有する曲り屋・小林勝広母屋の変遷過程と建築的特徴, 日本建築学会関東支部研究報告集, 82-2, pp.701-704
- 大野敏・林大祐・野原卓, 2012b, 地束を有する荒巻信一郎母屋の変遷過程と建築的特徴, 日本建築学会関東支部研究報告集, 82-2, pp.705-708
- 大野村誌編さん委員編, 2005, 『大野村誌 第1巻民俗編 ムラの生活、ムラの時間』, 大野村
- 大迫町史編纂委員会編, 1983, 『大迫町史<民俗資料編>』, 大迫町
- 大船渡市史編纂委員会編, 1980, 『大船渡市史 第四巻』, 大船渡市

- 小形信夫, 1980, 民家の特色, 新岩手風土記刊行会編『岩手県の歴史と風土』, 創土社, pp.359-363所収
- 小倉強, 1934, 南部の曲家, 国際建築, 10-7, pp.35-43
- 小倉強, 1939, 岩手県北上平野に於ける散居村, 建築雑誌, 653, pp.1017-1021
- 小倉強, 1955, 『東北の民家』, 相模書房
- 小倉強, 1956, 住居, 宮城縣史編纂委員会編『宮城県史19 (民俗)』, 宮城縣史刊行会, pp.1-94所収
- 小倉強, 1976, 『東北の民家探訪日誌』, 相模書房
- 小野芳次郎, 1968, 『東北地方の民家』, 明文書房
- 小野寺聡・瀬川強・高橋光世編, 2015, 『古民家清吉稲荷の記憶』, 西和賀エコミュージアム
- 小野寺司, 1987, 南部曲り屋の再生・実測報告, 生活文化史, 12, pp.116-130
- 加藤良一・平出保之助, 1942, 平泉の民家, 民家, 4-6, pp.53-59
- 金ヶ崎町史編さん委員会編, 2006, 『金ヶ崎町史4 民俗』, 金ヶ崎町
- 軽米町誌編纂委員会編, 1975, 『軽米町誌』, 軽米町
- 川井村教育委員会編, 1978, 『川井村の民俗資料 (門馬地区)』, 川井村教育委員会
- 川井村郷土誌編纂委員会編, 1962, 『川井村郷土誌 (下巻)』, 川井村役場
- 川島宙次, 1973, 『減びゆく民家 - 間取り・構造・内部』, 主婦と生活社
- 川島宙次, 1976, 『減びゆく民家 - 屋敷回り・形式』, 主婦と生活社
- 川本忠平, 1953, 陸中紫波地方における封建的遺制の一類 (第二報) - 農民家屋の間取りと其の機能 -, 岩手史学研究, 14, pp.43-50
- 観光資源保護財団編, 1984, 『南部の曲り家 - 遠野の歴史的環境保全に関する調査報告 -』, 観光資源保護財団
- 木内信蔵・大槻高彦, 1942, 南部曲家の分布 - 岩手県下の農家の形態並に経済に関する記録 -, 地理学評論, 18, pp.907-913
- 菊地成朋, 1990, 農村住居の『型』の成立とその社会性 - 東磐井地方の農村住居に関する研究 その1, 日本建築学会計画系論文報告集, 413, pp.107-117
- 菊地憲夫, 2003, 『岩手の古民家建築』, 胆江日日新聞社
- 菊地憲夫, 2006, 岩手県の民家 - 柱間寸法の地域性 -, 130, 民俗建築, pp.27-32
- 菊地憲夫, 2008, 岩手県南の農家住宅の番付方法, 134, 民俗建築, pp.21-26
- 菊地憲夫, 2009, 表キバと奥キバ, 136, 民俗建築, pp.64-71
- 菊地憲夫, 2011, 岩手県南の近世民家の番付方法, 140, 民俗建築, pp.34-42
- 菊地憲夫, 2013a, 岩手県西和賀地方の民家における柱間寸法, 143, 民俗建築, pp.68-77
- 菊地憲夫, 2013b, 岩手県花巻・北上地方の民家における柱間寸法, 144, 民俗建築, pp.52-61
- 菊地憲夫, 2014a, 陸前高田の民家における柱間寸法, 145, 民俗建築, pp.47-56
- 菊地憲夫, 2014b, 岩手県南旧仙台藩領の民家における柱内法制, 146, 民俗建築, pp.50-59
- 北上市立博物館編, 1992, 『みちのく民俗村に見た北上川流域の民家とその発達』, 北上市立博物館
- 黄海村史編纂委員会編, 1960, 『黄海村史』, 岩手県藤沢町
- 金野静一, 1979, 『陸前・気仙の民俗 I』, 陸前・気仙の民俗編集発行委員会
- 草野和夫, 1991, 『東北民家史研究』, 中央公論美術出版
- 草野和夫・高橋恒夫, 1974, 藤沢町の近世民家, 日本建築学会東北支部研究報告集, 23, pp.13-16
- 熊谷章一, 1967, 『花巻市史 (民俗篇)』, 花巻市教育委員会
- 蔵田周忠, 1952, 南部の曲家民家帖-26-, 民間伝承, 16, pp.502-503
- 米田藤博, 1976, 北上山地中央部の民家 - 閉伊川支流小国川流域を例として -, 新地理, 24, pp.33-45
- 今和次郎, 1989, 『日本の民家』, 岩波書店
- 今野幸正, 2008, 『旧南部藩領の消え行く茅葺「曲り家」』, 川口印刷工業
- 今野幸正, 2009, 『みちのく岩手の消え行く茅葺き「直家」』, 川口印刷工業
- 財団法人日本民家集落博物館編, 1991, 『民家集落 - ガイドブック -』, 財団法人日本民家集落博物館
- 財団法人日本民家集落博物館編, 2006, 『民家の案内』, 財団法人日本民家集落博物館
- 佐島直三郎, 1999, 『胆江の伝承・民話』, 胆江日日新聞社
- 佐島直三郎編, 2001, 『大浦の民俗 (10) 住生活』, 山田町教育委員会
- 佐藤健次郎, 1979, 住居 - 大家族に牛馬も同居の曲家ずまい -, 小田正年編『野田民俗誌』, 岩手県野田村教育委員会, pp.66-75所収
- 佐藤源八, 1939, 『南部二戸郡淺澤郷土資料』, 日本常民文化研究所編 (1973) 『日本常民生活資料叢書 第8巻』, 三一書房所収
- 佐藤巧・古建築研究会編, 1998, 『旧菅原家住宅復原修理報告書』, 北上市教育委員会
- 佐藤巧・古建築研究会編, 1999, 『旧佐々木家住宅復原修理報告書』, 北上市教育委員会

- 佐藤巧・古建築研究会編, 2000, 『旧北川家住宅復原修理報告書』, 北上市教育委員会
- 佐藤巧・古建築研究会編, 2005, 『旧小野寺家住宅旧星川家住宅旧菅原家住宅復原修理報告書』, 北上市教育委員会
- 三陸町史編集委員会編, 1988, 『三陸町史 第五巻 民俗一般編』, 三陸町
- 雫石町史編集委員会編, 1979, 『雫石町史』, 雫石町・雫石町教育委員会
- 清水擴, 1998, 岩手県南部地方の民家にみる柱内法制と柱間寸法, 建築史学, 30, pp.91-97
- 下湯沢高齢者学級・同老人クラブ編, 1988, 『昔の農家のくらし』, 下湯沢高齢者学級・同老人クラブ
- 浄法寺町史編纂委員会編, 1998, 『浄法寺町史 (下巻)』, 浄法寺町
- 白木小三郎, 1980, 『日本の民家 東日本篇』, 講談社
- 紫波町教育委員会編, 1989, 『紫波町の古民家』, 紫波町教育委員会
- 杉浦直, 1985, 東北地方における農村家屋母屋間取り形態の地域的差異と特色 (II), アルテス・リベラレス (岩手大学人文社会科学部紀要), 36, pp.15-56
- 杉浦直, 1988, 『東北の農村家屋』, 大明堂
- 杉本尚次, 1969a, 北上山地北部の村落と住居, 桃山学院大学社会学論集, 2-1, p.80-92
- 杉本尚次, 1969b, 『日本民家の研究』, ミネルヴァ書房
- 杉本尚次, 1974, 『日本民家探訪 - 民俗・地理学的考察』, 創元社
- 鈴木軍一, 1990, 『田河津村誌』, 鈴木軍一
- 鈴木透, 1992, 『前沢歴史散歩 - 前沢の文化財 -』, 鈴木秀悦
- 煤孫郷土史編集委員会編, 2004, 『煤孫郷土史』, 煤孫振興会
- 住田町史編纂委員会編, 1994, 『住田町史 第六巻 民俗編』, 住田町
- 村誌「たまやま」編纂委員会編, 1979, 『村誌たまやま』, 玉山村
- 高橋喜平, 1998, 『沢内物語』, 岩手日報社
- 高橋恒夫, 1985, 陸前高田地方の民家普請における気仙大工とその技法について, 日本建築学会計画系論文報告集, 349, pp.124-133
- 高橋正克, 2011, 『鶴尾 谷地の直家』, 高橋正克
- 田瀬の歴史編集委員会編, 2011, 『田瀬の歴史』, 田瀬地域コミュニティ会議
- 玉山村教育委員会編, 1985, 『玉山の古民家』, 玉山村教育委員会
- 附馬牛村誌編集委員会編, 1954, 『定本附馬牛村誌』, 附馬牛村役場
- 同潤会編, 1939, 『東北地方郷土住宅誌』, 同潤会
- 東北工業大学建築学科建築史研究室編, 1986, 『藤沢町の古民家』, 藤沢町教育委員会
- 東北大学建築学科佐藤巧研究室編, 1978, 『岩手県の古民家』, 岩手県教育委員会
- 東北歴史資料館編, 1984, 『三陸沿岸の漁村と漁業習俗 (上巻)』, 東北歴史資料館
- 東洋大学民俗研究会編, 1983, 『晴山の民俗』, 東洋大学民俗研究会
- 東和町史編纂委員会編, 1979, 『東和町史』, 東和町
- 遠野市教育委員会編, 1977, 『遠野の曲り家 - 砂子沢の集落 -』, 遠野市教育委員会
- 遠野文化研究センター調査研究課編, 2017, 『上閉伊西部教育資料「郷土のすがた』』, 遠野文化研究センター調査研究課, 岩教組上閉伊西部支部編 (1954) 『上閉伊西部教育資料「郷土のすがた』』の復刻版
- 都南村誌編集委員会編, 1974, 『都南村誌』, 都南村
- 留場栄, 1988, 『山人炉端話』, 熊谷印刷出版部
- 中村吉治, 1980, 『村落構造の史的分析 - 岩手県煙山村 -』, 御茶の水書房
- 名久井文明・名久井芳枝, 2008, 『地域の記憶 岩手県葛巻町小田周辺の民俗誌』, 一芦舎
- 名久井文明・名久井芳枝, 2010, 『滝沢村文化財調査報告書第35集「もの」から見た駿河家の暮らし - 江戸・明治・大正・昭和 -』, 岩手県滝沢村教育委員会
- 西根町教育委員会, 1986, 『西根町の古民家・浄屋』 (西根町史編さん報告書第3集), 西根町教育委員会
- 西山卯三, 1980, 『日本のすまいⅢ』, 勁草書房
- 二戸郡誌編集委員会編, 1968, 『二戸郡誌』, 二戸郡誌編集委員会
- 二戸市史編さん室編, 2013, 『郷土教育資料復刻集 (2) 浄法寺編 I』, 二戸市教育委員会, 浄法寺尋常高等小学校編 (1940) 『浄法寺村郷土教育資料』の復刻版
- 羽柴直人, 1993, 西和賀地方の近世民家, 岩手県文化振興事業団埋蔵文化センター紀要, 13, pp.81-93
- 畠山剛, 1956, 岩手県の内廐式住宅と曲家, 農村建築, 第7回大会資料 (その1), pp.42-48
- 浜島憲治, 2006, 遠野の民家を訪ねて, 民俗建築, 130, pp.77-87
- 林大祐・大野敏・野原卓, 2012, 岩手県九戸郡洋野町に所在する芝棟茅葺民家の残存状況について, 日本建築学会関東支部研究報告集, 82, pp.697-700

- 早池根ダム水没地区民俗調査グループ編, 1990, 『早池根ダム水没地区民俗調査報告書』, 大迫町
 半田良一編, 1981, 『山村問題と山村対策』, ミネルヴァ書房
 東山町史編纂委員会編, 1978, 『東山町史』, 東山町
 弘前大学人文学部民俗学実習履修生編, 2007, 『安代の民俗誌－岩手県八幡平市安代地区－』, 弘前大学人文学部民俗学研究室
 福田武雄編, 1974, 『農民生活変遷中心の滝沢村誌』, 滝沢村
 福山知三郎, 1962, 岩手の民家③－紫波郡赤沢の民家－, 奥羽史談, 33, pp.19-20
 藤原善一, 1981, 『ムラの移りかわり－岩手農村の生活白書』, 日本経済評論社
 文化財建造物保存技術協会編, 1972, 『重要文化財 旧菅野家住宅保存修理工事報告書』, 北上市
 文化財建造物保存技術協会編, 1976, 『重要文化財 小原家住宅保存修理工事報告書』, 東和町教育委員会
 文化財建造物保存技術協会編, 1978, 『重要文化財 伊藤家住宅保存修理工事報告書』, 伊藤喜四郎
 文化財建造物保存技術協会編, 1979, 『重要文化財 菊池家住宅保存修理工事報告書』, 遠野市
 文化財建造物保存技術協会編, 1980, 『重要文化財 藤野家住宅佐々木家住宅保存修理工事報告書』, 岩手県文化財保護委員会, 1965, 『岩手県の民家』, 文化財建造物特別調査報告
 水沢市史編纂委員会編, 1978, 『水沢市史 6 民俗』, 水沢市史刊行会
 水沢市史編纂委員会編, 1985, 『水沢市史 4 近代 (I)』, 水沢市史刊行会
 溝口歌子・小林昌人, 1978, 『民家巡礼－東日本編－』, 相模書房
 「みちのく古里物語」編集委員会編, 1984, 『みちのく古里物語－舞川の里－』, 「みちのく古里物語」編集委員会
 宮内哲, 1965, 沢内の民家－岩手県民家成立に関する一考察－, 岩手大学学芸学部研究年報, 25, pp.33-49
 宮古市教育委員会編, 1994, 『宮古市史 民俗編 (上巻)』, 宮古市教育委員会
 宮澤智士・安井妙子, 2010, 岩手県指定有形文化財一関市千厩町 村上家住宅の現況と復原考察, 長岡造形大学研究紀要, 8, pp.80-104
 宮本常一, 2007, 『日本人の住まい』, 農山漁村文化協会
 室根村文化財調査委員会編, 1985, 『室根の古民家』, 室根村教育委員会
 森嘉兵衛, 1953, 『近世奥羽農業経営組織論』, 有斐閣
 盛岡市教育委員会編, 1973, 『御所ダム水没繋地区文化財調査報告書』, 盛岡市教育委員会
 盛岡市教育委員会編, 1982, 『盛岡市所在古民家等建造物調査報告書』, 盛岡市教育委員会
 盛岡第二高等学校社会研究部編, 1970, 続「南部の曲り家」, 雑誌名不明, pp.13-18
 盛岡短期大学生活科学研究部編, 1959, 岩手県岩手郡西根村中村部落, 生活調査報告, 1, pp.1-93
 盛岡短期大学生活科学研究部編, 1961a, 岩手県岩手郡玉山村洪民船田部落, 生活調査報告, 2, pp.1-125
 盛岡短期大学生活科学研究部編, 1961b, 岩手県下閉伊郡川井村小国地区, 生活調査報告, 3, pp.1-115
 盛岡友の会編, 1935, 『田山村の生活』, 盛岡友の会
 森口多里, 1971, 『日本の民俗 岩手』, 第一法規
 森口多里, 1983, 岩手の厩と俗信, 森口多里他『北海道・東北地方の住い習俗』, 明玄書房, pp.103-130所収
 森本隆編, 2012, 『宮本常一と歩いた昭和の日本16 東北3』, 農山漁村文化協会
 弥栄中学校編, 1973, 『郷土誌 弥栄の里』, 萬葉堂書店
 柳田国男, 1935, 『遠野物語』, 角川書店 (角川文庫)
 矢巾町史編纂委員会編, 1985, 『矢巾町史 (上巻)』, 矢巾町
 矢巾町歴史資料刊行会編, 1990, 『矢巾町歴史資料集 第4集 徳田村郷土教育資料』, 矢巾町教育委員会
 矢巾町歴史資料刊行会編, 1992, 『矢巾町歴史資料集 第6集 不動村郷土教育資料』, 矢巾町教育委員会
 山影長栄, 1978a, 内厩式直家について, 花巻市教育委員会編『花巻市文化財調査報告書 第4集』, pp.13-16所収
 山影長栄, 1978b, 長屋門のある民家, 花巻市教育委員会編『花巻市文化財調査報告書 第4集』, pp.17-25所収
 山形村誌編さん委員会編, 2009, 『山形村誌 第1巻 民俗編』, 久慈市
 山口彌一郎, 1937, 北上山地に於ける山村の生活－岩手県下閉伊郡小国村及安家村－, 地理学, 5, 山口弥一郎 (1972) 『山口弥一郎選集第1巻』 pp.412-435所収
 山田町史編纂委員会編, 1986, 『山田町史 (上巻)』, 山田町教育委員会
 山根六郷研究会編, 2001, 『山根風土記』 (改訂版), 山根六郷研究会
 湯口郷土誌編集委員会編, 1989, 『湯口郷土誌』, 花巻市湯口公民館
 横浜国立大学建築史建築芸術研究室他編, 2012, 『洋野町茅葺民家読本』, 洋野町
 吉川祐子, 2002, 『遠野昔話の民俗誌的研究』, 岩田書院
 吉田靖編, 1981, 『日本の民家 第1巻 農家 I』, 学習研究社

- 吉田義昭, 1960, 岩手の民家①-和賀郡沢内地方-, 奥羽史談, 30, pp.24-25
吉田義昭, 1964, 岩手の民家⑦-東磐井郡大東町洪民-, 奥羽史談, 40, pp.25-26
吉田義昭, 1965, 岩手の民家⑧-北上市相去地方-, 奥羽史談, 45, p.15
吉田義昭・及川和哉編, 1983, 『図説盛岡四百年 上巻』, 郷土文化研究会
陸前高田市史編集委員会編, 1991, 『陸前高田市史 第五巻 民俗編 (上)』, 陸前高田市
類家英一郎, 1972, 南部のまがりや, 倉岡信弘, pp.1-4

付表 岩手県の伝統的民家（農家）のデータデータベース（一部）

旧南部藩領

| 民家番号 | 旧郡 | 旧市町村 | 氏名 | 列数 | 間取り図 | | 民家形態 | | 勝手 | | 広間 | | | 座敷 | | | | 初出典 | | |
|------|-----|------|--------|----|------|----|------|------|---------|---|----|-----|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|-------------------------------------------------------------------------|
| | | | | | 現状 | 復原 | 曲家 | 内廬直家 | （廬不明）直家 | 右 | 左 | 前広間 | 奥広間 | 中広間 | 全広間 | 不明・その他 | 織座敷 | | 前座敷 | 奥座敷 |
| 1-1 | 九戸郡 | 種市町 | 荒巻信一郎 | 2 | ● | | ○ | ○ | | ○ | | | | | | 2 | | | | 大野・林・野原(2012b)p.705 横浜国立大学建築史建築芸術研究室他編(2012)p.26 |
| 1-2 | 九戸郡 | 種市町 | 荒巻信一郎 | 2 | ● | | ○ | ○ | | ○ | | | | | | 2 | | | | 大野・林・野原(2012b)p.705 |
| 2 | 九戸郡 | 種市町 | 小山下タ子 | 2 | | × | | | | | | | | | | 2 | | | | 林・大野・野原(2012)p.700 |
| 3 | 九戸郡 | 種市町 | 下大澤克彦 | 2 | | | ○ | ○ | | | | | | | | 2 | | | | 横浜国立大学建築史建築芸術研究室他編(2012)p.52 |
| 4 | 九戸郡 | 種市町 | 秋山久人 | 2 | | × | | | | | | | | | | 2 | | | | 林・大野・野原(2012)p.700 |
| 5 | 九戸郡 | 大野村 | 大澤末男 | 2 | | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | | 大野村誌編さん委員会編(2005)p.306 |
| 6 | 九戸郡 | 大野村 | 一本松年男 | 2 | | × | | | | | | | | | | 2 | | | | 林・大野・野原(2012)p.700 |
| 7 | 九戸郡 | 大野村 | 川原安見 | 2 | | × | | | | | | | | | | 2 | | | | 林・大野・野原(2012)p.700 |
| 8 | 九戸郡 | 大野村 | 源田 | 2 | | × | | | | | | | | | | 2 | | | | 林・大野・野原(2012)p.700 |
| 9 | 九戸郡 | 大野村 | 源田 | 2 | | × | | | | | | | | | | 2 | | | | 林・大野・野原(2012)p.700 |
| 10-1 | 九戸郡 | 大野村 | 小村勝広 | 2 | ● | | ○ | ○ | | | | | | | | 2 | | | | 大野村誌編さん委員会編(2005)p.302 大野・林・野原(2012a)p.701 横浜国立大学建築史建築芸術研究室他編(2012)p.22 |
| 10-2 | 九戸郡 | 大野村 | 小村勝広 | 2 | ● | | ○ | ○ | | | | | | | | 2 | | | | 大野・林・野原(2012a)p.701 |
| 11 | 九戸郡 | 大野村 | 横公信一 | 2 | | × | | | | | | | | | | 2 | | | | 林・大野・野原(2012)p.700 |
| 12 | 九戸郡 | 大野村 | 坂下義典 | 2 | | × | | | | | | | | | | 2 | | | | 林・大野・野原(2012)p.700 |
| 13 | 九戸郡 | 大野村 | 佐々木正一 | 2 | | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | | 林・大野・野原(2012)p.700 |
| 14 | 九戸郡 | 大野村 | 澤口種吉 | 2 | | × | | ○ | | | | | | | | 2 | | | | 林・大野・野原(2012)p.700 |
| 15 | 九戸郡 | 大野村 | 岡向勇 | 2 | | × | | | | | | | | | | 2 | | | | 林・大野・野原(2012)p.700 |
| 16 | 九戸郡 | 大野村 | 高張伊佐男 | 2 | | × | | | | | | | | | | 2 | | | | 横浜国立大学建築史建築芸術研究室他編(2012)p.45 |
| 17 | 九戸郡 | 大野村 | 竹高喜一 | 2 | | × | | | | | | | | | | 2 | | | | 林・大野・野原(2012)p.700 |
| 18 | 九戸郡 | 大野村 | 田代菖草 | 2 | | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | | 横浜国立大学建築史建築芸術研究室他編(2012)p.39 |
| 19 | 九戸郡 | 大野村 | 中村篤男 | 2 | | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | | 大野村誌編さん委員会編(2005)p.304 横浜国立大学建築史建築芸術研究室他編 |
| 20 | 九戸郡 | 大野村 | 中屋敷ナカ | 2 | | ○ | | | | | | ○ | | | | 2 | | | | 横浜国立大学建築史建築芸術研究室他編(2012)p.42 |
| 21 | 九戸郡 | 大野村 | 西幸男 | 2 | | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | | 横浜国立大学建築史建築芸術研究室他編(2012)p.41 |
| 22 | 九戸郡 | 大野村 | 西公薫 | 2 | | × | | | | | | | | | | 2 | | | | 林・大野・野原(2012)p.700 |
| 23 | 九戸郡 | 大野村 | 間沢 | 2 | | × | | | | | | | | | | 2 | | | | 林・大野・野原(2012)p.700 |
| 24 | 九戸郡 | 大野村 | 村田岩雄 | 2 | | × | | | | | | | | | | 2 | | | | 林・大野・野原(2012)p.700 |
| 25 | 九戸郡 | 大野村 | 百島石松 | 2 | | × | | | | | | | | | | 2 | | | | 林・大野・野原(2012)p.700 |
| 26 | 九戸郡 | 大野村 | 森外孝一 | 2 | | × | | | | | | | ○ | | | 2 | | | | 林・大野・野原(2012)p.700 |
| 27 | 九戸郡 | 大野村 | 森外美二 | 2 | | × | | | | | | | | | | 2 | | | | 林・大野・野原(2012)p.700 |
| 28 | 九戸郡 | 大野村 | 森外森二 | 2 | | × | | | | | | | | | | 2 | | | | 林・大野・野原(2012)p.700 |
| 29 | 九戸郡 | 大野村 | 柳栲田みよ子 | 2 | | × | | | | | | | | | | 2 | | | | 林・大野・野原(2012)p.700 |
| 30 | 九戸郡 | 軽米町 | 安藤忠吉 | 2 | | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | | 東洋大学民俗研究会編(1983)p.108 |
| 31-1 | 九戸郡 | 軽米町 | 狹條健藏 | 2 | ● | | ○ | | | | | | | | | 2 | | | | 東北大学建築学科佐藤巧研究室編(1978)p.116 |
| 31-2 | 九戸郡 | 軽米町 | 狹條健藏 | 2 | ● | | ○ | | | | | | | | | 2 | | | | 東北大学建築学科佐藤巧研究室編(1978)p.72 p.116 菊地(2003)p.148 |
| 32 | 九戸郡 | 軽米町 | 小笠原精一郎 | 2 | | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | | 東洋大学民俗研究会編(1983)p.120 |
| 33 | 九戸郡 | 軽米町 | 工藤義直 | 3 | | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | | 東洋大学民俗研究会編(1983)p.116 |
| 34 | 九戸郡 | 軽米町 | 高澤申太郎 | 2 | | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | | 東洋大学民俗研究会編(1983)p.110 |
| 35 | 九戸郡 | 軽米町 | 中家石太郎 | 2 | | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | | 東洋大学民俗研究会編(1983)p.124 |
| 36 | 九戸郡 | 軽米町 | 畑山長助 | 3 | | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | | 東洋大学民俗研究会編(1983)p.104 |
| 37 | 九戸郡 | 軽米町 | 福田ハチ | 2 | | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | | 東洋大学民俗研究会編(1983)p.112 |
| 38 | 九戸郡 | 軽米町 | 古里勝彦 | 2 | | ○ | | | | | | | | | | 3 | | | | 東洋大学民俗研究会編(1983)p.106 |

初出出典

| 民家番号 | 旧郡 | 旧市町村 | 氏名 | 列数 | 間取り図 | | 民家形態 | | | 勝手 | | 広間 | | | 座敷 | | | 初出出典 | |
|-------|-----|------|----------|----|------|----|------|---------|---|----|-----|-----|-----|-----|--------|------|------|------|---------------------------------------------|
| | | | | | 現状 | 復原 | 内廬直家 | (廬不明)直家 | 右 | 左 | 前広間 | 奥広間 | 中広間 | 全広間 | 不明・その他 | 織座敷数 | 前座敷数 | | 奥座敷数 |
| 650 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 高橋 | 2 | ○ | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | 菊地(2003)p.48 |
| 651 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 高橋龜治 | 2 | ○ | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | 水沢市史編纂委員会編(1978)p.19 胆沢町教育委員会編(1993)p.26 |
| 652 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 高橋善悦 | 2 | ○ | × | | | | | | | | | | 2 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.85 |
| 653 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 高橋久一 | 2 | ○ | ○ | | | | | | | | | | 1 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.110 |
| 654 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 高橋清志 | 2 | ○ | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.95 |
| 655 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 高橋清広 | 2 | ○ | × | | | | | | | | | | 2 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.74 |
| 656 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 高橋真一 | 2 | ○ | ○ | | | | | | | | | | 1 | | | 胆沢町教育委員会編(1993)p.21 |
| 657 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 高橋久 | 2 | ○ | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.77 |
| 658 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 高橋久吉 | 2 | ○ | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.90 |
| 659 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 高橋次郎 | 2 | ○ | × | | | | | | | | | | 2 | | | 岩手県教育委員会編(1966)p.82 |
| 660 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 高橋万次郎 | 2 | ○ | ○ | | | | | | | | | | 1 | | | 胆沢町教育委員会編(1993)p.25 |
| 661 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 高橋保雄 | 2 | ○ | × | | | | | | | | | | 2 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.69 |
| 662 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 高橋友一・秋雄 | 2 | ○ | ○ | | | | | | | | | | 1 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.109 胆沢町教育委員会編(1993)p.23 |
| 663 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 千田時男 | 2 | ○ | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.97 |
| 664 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 千田喜男 | 2 | ○ | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.82 |
| 665 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 千田太郎 | 2 | ○ | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.87 |
| 666 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 千葉 | 2 | ○ | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | 小野(1968)p.17 |
| 667 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 千葉幸四郎・幸雄 | 2 | ○ | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | 岩手県教育委員会編(2007)p.170 |
| 668 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 千葉信二 | 2 | ○ | ○ | | | | | | | | | | 1 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.87 |
| 669 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 千葉博 | 2 | ○ | × | | | | | | | | | | 1 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.62 |
| 670 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 七名善治 | 2 | ○ | × | | | | | | | | | | 1 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.68 |
| 671 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 中沢栄吉 | 2 | ○ | × | | | | | | | | | | 2 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.112 |
| 672 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 中沢之松 | 2 | ○ | × | | | | | | | | | | 2 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.50 |
| 673 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 蜂谷朝之助 | 3 | ○ | × | | | | | | | | | | 1 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.49 |
| 674 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 蜂谷由二 | 2 | ○ | ○ | | | | | | | | | | 1 | | | 池田(1986)p.13 |
| 675 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 羽藤剛二 | 2 | ○ | × | | | | | | | | | | 2 | | | 胆沢町教育委員会編(1993)p.23 |
| 676 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 羽藤幸基 | 2 | ○ | × | | | | | | | | | | 2 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.62 |
| 677 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 本庄久志 | 2 | ○ | × | | | | | | | | | | 2 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.61 |
| 678-1 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 本庄力男 | 2 | ● | × | | | | | | | | | | 2 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.64 |
| 678-2 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 本庄力男 | 2 | ○ | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | 胆沢町編(1985)p.152 胆沢町教育委員会編(2000)p.3 |
| 679 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 三田卓治 | 2 | ○ | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | 胆沢町教育委員会編(2000)p.3 |
| 680 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 村上賢記 | 2 | ○ | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.80 |
| 681 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 村上賢一 | 2 | ○ | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.98 |
| 682-1 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 村上泰一 | 2 | ● | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.68 胆沢町文化財調査委員会編 |
| 682-2 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 村上泰一 | 2 | ○ | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.1 |
| 683 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 村上敏夫 | 2 | ○ | × | | | | | | | | | | 2 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.1 |
| 684 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 渡辺定治 | 2 | ○ | × | | | | | | | | | | 2 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.52 |
| 685 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 渡辺久 | 2 | ○ | × | | | | | | | | | | 2 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.107 |
| 686 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 渡辺正明 | 2 | ○ | × | | | | | | | | | | 2 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.63 |
| 687 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 某 | 2 | ○ | × | | | | | | | | | | 2 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.60 |
| 688 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 某 | 2 | ○ | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | 杉本(1969b)p.115 |
| 689 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 某 | 2 | ○ | × | | | | | | | | | | 1 | | | 小形(1980)p.362 |
| 690 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 阿部スガ子 | 2 | ○ | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | 池田(1981)p.165 |
| 691 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 小原 | 2 | ○ | × | | | | | | | | | | 1 | | | 池田(1981)p.139 |
| 692-1 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 後藤正治郎 | 2 | ● | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | 胆沢町文化財調査委員会編(1978)p.68 p.98 |
| 692-2 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 後藤正治郎 | 2 | ○ | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | 東北大学建築学科佐藤巧研究室編(1978)p.68 p.98 |
| 693 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 佐々木三雄 | 3 | ○ | × | | | | | | | | | | 2 | | | 菊地(2002)p.28 |
| 694 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 鈴木長雄 | 2 | ○ | ○ | | | | | | | | | | 2 | | | 菊地(2002)p.28 |
| 695 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 鈴木盛 | 3 | ○ | × | | | | | | | | | | 2 | | | 鈴木(1992)p.58 |
| 696 | 胆沢郡 | 胆沢町 | 鈴木東 | 3 | ○ | ○ | | | | | | | | | | 1 | | | 同潤会(1939)p.66 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | 東北大学建築学科佐藤巧研究室編(1978)p.68 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | 小倉(1956)p.47 |

初出典

| 民家 番号 | 旧 旧郡 市町村 | 氏名 | 列数 | 間取り図 | | 民家形態 | | | 勝手 | | 広間 | | | 座敷 | | | | | | |
|----------|----------------|-----|-------|------|----|-------|----|------|---------|---|----|-----|-----|-----|-----|--------|------|------|-------------------------------------|---------------|
| | | | | 現状 | 復原 | 構造・形態 | 曲家 | 内廬直家 | (廬不明)直家 | 右 | 左 | 前広間 | 奥広間 | 中広間 | 全広間 | 不明・その他 | 織座敷数 | 前座敷数 | 奥座敷数 | 全座敷数 |
| 745 | 東郷井郡 | 千原町 | 西城兵三郎 | 2 | ○ | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | | 石原(1973)p.159 |
| 746 | 東郷井郡 | 千原町 | 佐藤公毅 | 2 | ○ | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | | 菊地(1990)p.111 |
| 747 | 東郷井郡 | 千原町 | 千葉良一 | 2 | ○ | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 伊藤(1987)p.945 | |
| 748 | 東郷井郡 | 千原町 | 藤野亀雄 | 2 | ○ | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 菊地(1990)p.110 | |
| 749-1 | 東郷井郡 | 千原町 | 村上和子 | 3 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 宮澤・安井(2010)p.80 | |
| 749-2 | 東郷井郡 | 千原町 | 村上和子 | 3 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 菊地(2003)p.14 宮澤・安井(2010)p.80 | |
| 750-1 | 東郷井郡 | 窪保村 | 岩浦俊雄 | 2 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1985)p.21 | |
| 750-2 | 東郷井郡 | 窪保村 | 岩浦俊雄 | 2 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1985)p.21 | |
| 751 | 東郷井郡 | 窪保村 | 渡藤貞七郎 | 3 | ○ | ○ | | | | ○ | | | | | | | 2 | | 室根村文化財調査委員会編(1985)p.3 | |
| 752-1 | 東郷井郡 | 窪保村 | 及川恭一 | 2 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1985)p.23 | |
| 752-2 | 東郷井郡 | 窪保村 | 及川恭一 | 2 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1985)p.23 | |
| 753 | 東郷井郡 | 窪保村 | 及川英一 | 2 | ○ | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1985)p.36 | |
| 754 | 東郷井郡 | 窪保村 | 小野寺重雄 | 2 | ○ | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1985)p.15 | |
| 755-1 | 東郷井郡 | 窪保村 | 小山權雄 | 2 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1978)p.69 室根村文化財調査委員会編 | |
| 755-2 | 東郷井郡 | 窪保村 | 小山權雄 | 2 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1985)p.25 | |
| 756-1 | 東郷井郡 | 窪保村 | 小山英治 | 2 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1985)p.29 | |
| 756-2 | 東郷井郡 | 窪保村 | 小山英治 | 2 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1985)p.29 | |
| 757 | 東郷井郡 | 窪保村 | 加藤久 | 2 | ○ | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1985)p.13 | |
| 758-1 | 東郷井郡 | 窪保村 | 菊池静夫 | 2 | ○ | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1985)p.27 | |
| 758-2 | 東郷井郡 | 窪保村 | 菊池静夫 | 2 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1985)p.27 | |
| 759-1 | 東郷井郡 | 窪保村 | 菊池武敏 | 2 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1985)p.9 | |
| 759-2 | 東郷井郡 | 窪保村 | 菊池武敏 | 2 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1985)p.9 | |
| 760 | 東郷井郡 | 窪保村 | 日下寛 | 2 | ○ | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1985)p.34 | |
| 761-1 | 東郷井郡 | 窪保村 | 熊谷肇 | 2 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1985)p.7 | |
| 761-2 | 東郷井郡 | 窪保村 | 熊谷肇 | 2 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1985)p.7 | |
| 762 | 東郷井郡 | 窪保村 | 熊谷真直 | 3 | ○ | × | | | | ○ | | | | | | | | | 岩手県教育委員会編(1966)p.84 | |
| 763-1 | 東郷井郡 | 窪保村 | 小若正助 | 2 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1985)p.19 | |
| 763-2 | 東郷井郡 | 窪保村 | 小若正助 | 2 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1985)p.19 | |
| 764 | 東郷井郡 | 窪保村 | 菅西勝栄 | 2 | ○ | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1985)p.40 | |
| 765-1 | 東郷井郡 | 窪保村 | 鈴木喜久雄 | 2 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1978)p.103 | |
| 765-2 | 東郷井郡 | 窪保村 | 鈴木喜久雄 | 2 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1978)p.69 p.103 | |
| 766-1 | 東郷井郡 | 窪保村 | 千葉近男 | 2 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1985)p.5 | |
| 766-2 | 東郷井郡 | 窪保村 | 千葉近男 | 2 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1985)p.5 | |
| 767-1 | 東郷井郡 | 窪保村 | 三浦正義 | 2 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1985)p.32 | |
| 767-2 | 東郷井郡 | 窪保村 | 三浦正義 | 2 | ○ | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1985)p.32 | |
| 768 | 東郷井郡 | 窪保村 | 三浦正義 | 2 | ○ | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1985)p.17 | |
| 769 | 東郷井郡 | 窪保村 | 三浦宏幸 | 2 | ○ | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1985)p.37 | |
| 770 | 東郷井郡 | 窪保村 | 某 | 2 | ○ | × | | | | ○ | | | | | | | | | 森口(1971)p.53 | |
| 771 | 東郷井郡 | 藤沢町 | 伊藤力 | 2 | ○ | × | | | | ○ | | | | | | | | | 黄瀬村史編纂委員会編(1960)p.106 | |
| 772-1 | 東郷井郡 | 藤沢町 | 伊藤正義 | 2 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1986)p.22 | |
| 772-2 | 東郷井郡 | 藤沢町 | 伊藤正義 | 2 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1986)p.22 | |
| 773-1 | 東郷井郡 | 藤沢町 | 岩瀧六 | 2 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1986)p.20 | |
| 773-2 | 東郷井郡 | 藤沢町 | 岩瀧六 | 2 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1986)p.20 | |
| 774-1 | 東郷井郡 | 藤沢町 | 岩瀧平 | 2 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1986)p.46 | |
| 774-2 | 東郷井郡 | 藤沢町 | 岩瀧平 | 2 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1986)p.46 | |
| 775-1 | 東郷井郡 | 藤沢町 | 岩瀧弘 | 3 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1986)p.42 | |
| 775-2 | 東郷井郡 | 藤沢町 | 岩瀧弘 | 3 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1986)p.42 | |
| 776-1 | 東郷井郡 | 藤沢町 | 岩瀧弘文 | 3 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1986)p.40 | |
| 776-2 | 東郷井郡 | 藤沢町 | 岩瀧弘文 | 3 | ● | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | 室根村文化財調査委員会編(1986)p.40 | |

